

(社)地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

幹事長の就任にあたって

関東支部幹事長
菊池喜昭

このたび、幹事長を拝命しました。どうぞよろしくお願いいたします。

関東支部は設立から6年という非常に若い支部ですが、これまで、石原前支部長や太田支部長を中心として活発な活動を展開され、最大の会員を有する支部としての責任を果たしてきていると感じています。これまでの皆様のご尽力に感謝するとともに、関東支部のさらなる発展のために微力ながら私も頑張っていきたいと思っております。

学会活動を取り巻く状況には大変厳しいものがあり、会員の減少、会計のアンバランスに悩まされているのが実情であると思っております。その中で、せめて関東支部では明るく楽しく前向きに活動をしていきたいものと思っております。中でも、個人会員、特別会員のためのきめの細かいサービスの実施、若手技術者の交流の促進、Geo-Kantoの充実化などが図れば良いと思っております。特に、若手技術者の交流の活発化は、学会の将来を考える上でも大変重要なことであり、今後も引き続いて実施したいと考えて議論を進めているところです。特別会員の皆様に向けて、「出前講演会」というものがあるのをご存じでしょうか。職場内の研修の一環としてぜひご検討ください。

関東支部はざっと4000人もの会員を有しています。この数字は各支部中最大となっています。地の利とこの規模は大変大きな武器であり、また、責任でもあると考えています。本部との関係、他の支部との関係を考えますと、あまり出しゃばることはふさわしくありませんが、本部や他の支部と良い関係を築くことが、一つの責任であろうと考えています。そのイメージは、例えば、研究委員会の活動や様々な行事に支部の壁を乗り越えて参加できるような雰囲気をつくることです。

勝手な思いを書き綴ってしまいましたが、誠心誠意やっていく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



「千葉県グループ技術講習会」開催報告

千葉県グループ リーダー幹事
沓澤貞雄

千葉県グループでは千葉県建設技術協会と共催で平成 21 年 11 月 10 日（火）に千葉市にある千葉県教育会館で技術講習会を開催しました。

当日は千葉県及び県下市町村の技術職員と地盤工学会会員で約 250 名が参加されました。

講習会では（財）土木研究センター地盤施工研究部の中根淳主任研究員から「補強土壁の設計・施工上の留意点」と題する講演と東京理科大学理工学部の龍岡文夫教授から「地盤災害から人々を護る」と題する講演がありました。



写真 1 地盤災害について講演される龍岡教授



写真 2 会場風景

特に龍岡先生の講演では先生が地盤工学会の会長時代の会長特別委員会でまとめられた「地震と豪雨・洪水による地盤災害を防ぐために 地盤工学からの提言」の内容にそって地盤災害の原因やその対策について詳しくお話されました。

今年も西日本を中心にした豪雨による地盤災害や、8月に発生した地震による東名高速道路の盛土の崩壊などの災害が発生しているので参加者も高い関心をもって熱心に聴講されていました。

さらに講習会終了後、引き続き龍岡先生にも参加していただき共催の千葉県建設技術協会の皆さんと地盤工学会千葉県グループの会員が参加した意見交換会を開催し情報交換をしました。

「平成 21 年度 神奈川県地盤工学セミナー」開催報告

神奈川県グループ 幹事
森川嘉之（港湾空港技術研究所）
大塚 博（応用地質株式会社）

開催日：平成 21 年 11 月 27 日 14 時 00 分から 17 時 20 分

場 所：関東学院大学 関内メディアセンター（横浜市中区太田町 2-23）

参加人数：42 名（幹事除く）

プログラム：

講演(1)「造成宅地の耐震調査・検討・対策のケーススタディー - 宅地造成等規制法改正に伴うわかりやすい実務例 - 」

安田 進 先生（東京電機大学）

講演(2)「古タイヤゴムチップを固化処理土に混合した新しい環境負荷低減型・変形追随性地盤材料の開発」

御手洗 義夫氏（東亜建設工業株式会社）

講演(3)「建物直下を通過するわが国初の超近接双設大断面トンネルの設計・施工技術 - 新東名高速道路今里第一トンネル - 」

名井 乃氏（中日本高速道路株式会社）

平成 21 年 11 月 27 日 14 時から関東学院大学関内メディアセンターにおいて「平成 21 年度 神奈川県地盤工学セミナー」を開催しました。本セミナーは地盤工学会の活動を広く知って頂く目的で開催しており今回で 3 回目の実施となります。進行中のプロジェクトおよび昨今話題の多い防災、地盤環境とし、3 人の講師の方々にご講演をお願いしました。

第 1 講演の東京電機大学の安田先生には「造成宅地の耐震調査・検討・対策のケーススタディー - 宅地造成等規制法改正に伴うわかりやすい実務例 - 」というタイトルで、実際の調査事例を基に、盛土造成宅地の抽出方法から調査・検討方法、対策までを分かり易く講演して頂きました。

第 2 講演には東亜建設工業(株)の御手洗氏をお迎えし、「古タイヤゴムチップを固化処理土に混合した新しい環境負荷低減型・変形追随性地盤材料の開発」というタイトルで、古タイヤチップを固化処理土の有効性（高い靱性，変形追随性，遮水性，リサイクル性）や、その将来性についてもご講演頂きました。

第 3 講演には進行中のプロジェクトとして中日本高速道路(株)名井乃氏をお迎えし、新東名高速道路今里第一トンネルの実際の施工時の状況写真等を交えて、様々な問題に対しいかに対応し、竣工に及んだかをご講演頂きました。

今回の参加人数は42人と第2回の参加者が25名に対し17名の増員であり昨年度よりも多くの方にご参加いただきました。また参加者の方々の講演内容への関心が高く講演時間一杯まで活発な意見交換がなされ、非常に良い会となりました。

また、昨年同様、ご講演の間にポスターセッションを行いました。今年度は学生の方ばかりでなく、企業の方にもご応募いただきました。テーマは多種多様で、ご来場頂いた方のほとんどが足を運んで頂き、意見交換がなされていました。

神奈川県グループでは、今後も、プログラムの内容や告知方法を工夫するなどして、本セミナーを継続・発展させ、多くの方にご参加いただけるようにと考えております。



写真1 講演会場の様子



写真2 講演会場の様子



写真3 ポスターセッション会場の様子



写真4 ポスターセッション会場の様子

第9回彩の国市民科学オープンフォーラム開催報告

主催： 埼玉大学地圏科学研究センター

共催： 自然災害研究協議会関東地区部会

(社)地盤工学会関東支部

後援： 埼玉県，埼玉県教育委員会，さいたま市，埼玉県技術士会

(社)埼玉県建設コンサルタント技術研修協会

埼玉県グループ リーダー幹事

橘 伸也(埼玉大学)

平成21年12月17日(木)14:00~17:00,大宮ソニックシティ・市民ホールにおいて,第9回彩の国市民科学オープンフォーラムが開催されました.この行事は,埼玉大学地圏科学研究センターが社会啓発活動の一環として毎年開催しているもので,地盤工学会関東支部も例年,共催参加しています.平成21年度は,市民の方々を含め170名にのぼる大勢の方々にご参加をいただきました.

平成21年度のテーマは,「大地震・大洪水から生き延びる」とし,話題提供として3名の著名な講師の方々からご講演をいただき,引き続き,パネルディスカッションの時間が設けられました.講演の内容は,下記の通りです.

1. 災害イメージングのすすめ

東京大学総合防災情報研究センター准教授

大原 美保 講師

2. 地域防災力向上の処方箋

群馬大学大学院工学研究科教授

片田 敏孝 講師

3. 埼玉県の防災対策

埼玉県危機管理防災部消防防災課

富山 晶 講師

大原講師の講演内容は,災害発生時から時系列に沿って,何が起るか,何ができるかを常日頃からイメージしておくことによって災害時の被害軽減を目指そうとするものであり,スポーツのメンタルトレーニングと似たような発想でありました.講演では,イメージの際の「10のポイント」を挙げられ,大変分かりやすく説明をいただきました.

片田講師の講演では,最近のゲリラ豪雨の発生時に起きた,避難勧告に従って避難したことによって災害を被ってしまった事例を紹介され,行政主導の防災の限界を指摘されました.その上で,よく言われる自助にも2つあること(「受身の自助」と「内発的自助」)を指摘され,内発的自助の醸成を促進する努力が必要であることを強調されました.これまでの行政主導の防災対策に対して,一石を投じられた内容でありました.

お二人の講演の主旨は、片田講師の言葉を借りれば、居安思危（「安きに居りて危うきを思う」）という言葉で纏められると思います。

これらの講演を受けて、埼玉県富山講師は、埼玉県で起きた災害事例と今後起こり得る災害について紹介され、自助・共助・公助が一体となった防災対策の重要性を強調されました。また、埼玉県の防災対策の現況を説明され、自助・共助・公助を高めるための様々な取り組みを紹介されました。関連して、埼玉県防災学習センターや災害時伝言サービスなどのチラシも配布されました。

パネルディスカッションでは、市民の方々から多くの質問がなされました。例えば、「地震発生時刻と緊急地震速報がでるまでの時間について」「地震の発生回数について」「その他の避難経路について」「豪雨時の水の流速と渡れるか渡れないかの判断について」など、基礎的な内容から緊急速報などの内容まで多岐にわたりました。講師の皆様には、各質問に丁寧に答えていただきました。

平成 22 年度につきましても、平成 22 年 11 月 29 日 14:00 より、大宮ソニック・国際会議室において、第 10 回彩の国市民科学オープンフォーラムの開催を予定いたしております。今年度も、地盤工学会関東支部のホームページ、あるいはメーリングリストなどを通じて会告をする予定でございます。多数の方々のご参加をお待ちいたしております。



写真 1 パネルディスカッションで
質問に答える講演者



写真 2 会場の様子

特別講演会 「東京スカイツリーの構造設計について」

企画総務グループ 幹事
関 崇夫 (株大林組)

平成 22 年 1 月 27 日 17 時～19 時において、地盤工学会地下大会議室にて標記の講演会が開催されました。ご講演は東京スカイツリーの構造設計に携わられています、株式会社 日建設計 構造設計主管の

小西厚夫様により行われました。当日は、89名の方の御参加をいただきました。会場は満席で多くの方が建築分野のビックプロジェクトご興味をお持ちであると感じられました。

ご講演は、世界のタワーから始まり東京スカイツリーの計画の概要、上部構造の耐震・耐風設計、基礎構造の設計を中心に、このような高層のタワーを実現するに際して採用された最先端の技術についてわかり易くご講演いただきました。

特に、東京スカイツリーの中心にはPC造の心柱があり、この心柱は法隆寺など日本古来の五重塔に代表される伝統的木造多層塔にある心柱と同様な働きをし、暴風や地震などに対して揺れを低減する「心柱制振システム」として取り入れられていること、また基礎構造については、地震時や暴風時には大きな転倒モーメントが発生し、基礎には大きな引抜き力となり作用します。この引抜き力に対する抵抗機構として、拡底工法による2段の節付き杭のSRC造連続地中壁杭を採用していることなどが説明された。

会員の皆様は土や基礎関係を専門とする方が多く、専門外の上部構造について関心のない方も多いのですが、今回の参加者数の多さからみるとスカイツリーのような高層のタワーを実現するために、タワー全体でどのような工夫されているのか関心があったのではないかと思います。

最後になりましたが、貴重な講演会を実施していただきました小西様に対し深く御礼申し上げます。

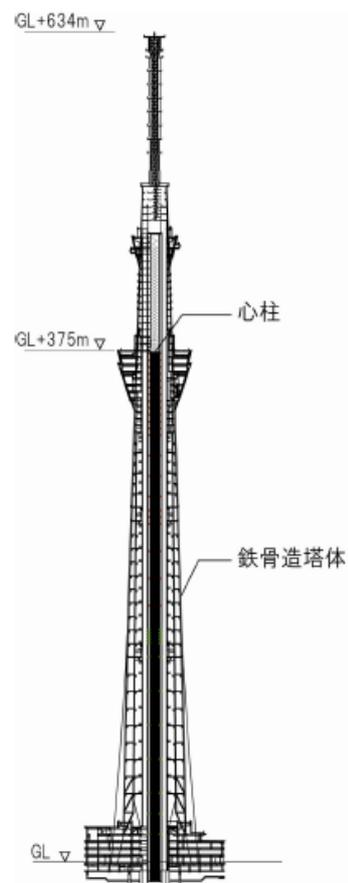


図1 スカイツリーの心柱*

*当日配布資料より抜粋



写真1 会場全体の様子



写真2 講演者と前列付近の様子

「第1回若手会員交流会」開催報告

企画総務グループ 幹事
鎌田敏幸（ケミカルグラウト㈱）

学生会員や、若手技術者・研究者が直面している課題や近況について自由に意見交換を行なう目的で、標記交流会を平成22年2月26日（金）17時から地盤工学会大会議室にて開催した。この会で学生会員や若手技術者・研究者がお互いに意見交換を行うことで、今後の会員同士のネットワーク強化を図ることも期待できる。

当日は、36名の出席であったが、コーディネータ（5名）とオブザーバーの東京大学の東畑幹事長、鹿島建設の北本副幹事長を加えると大会議室もほぼ満席となった。

東畑幹事長の開催挨拶後、北田氏（関東地方整備局）、田畑氏（千葉県）、池本氏（東日本旅客鉄道）、太田氏（大成建設）、寺田氏（応用地質）の順に約10分間ずつそれぞれの所属する業界の仕事内容や位置づけ、現在行っている業務や直面している課題等の説明をしていただいた。その後、フリーディスカッションによる意見交換を行なった。意見交換会では、コーディネータの職種によって官公庁グループ（北田氏、田畑氏）と民間グループ（池本氏、太田氏、寺田氏）の2つのグループ分けを行い、参加者と車座になって意見交換を行なった。

参加者の約2/3が就職活動を行なっている学生ということもあり、どちらのグループでも、参加者から「現在の業界に就職した理由」、「普段の業務」、「学生と社会人で変わった事」等の質問が多かった。その他の質問では、「公共事業費削減について」等、昨今の低迷する経済状況での建設業に対する不安についての質問もあった。途中から2つのグループも細分化されて、個々のコーディネータが4、5名の参加者とそれぞれ意見交換をする形となった。また、会員同士でも大学や企業の垣根を越えて意見交換がおこなれた。それぞれのコーディネータと少数の参加者が一つの議題に深く意見交換する形となり、予定していた1時間の時刻では足りないぐらいに意見交換会は、大変盛況であった。

今後、関東支部では若手会員グループを立ち上げ、定期的に交流会を行うことで若手会員同士のネットワークの充実を図る予定である。また、若手会員を対象とした現場見学や若手会員対象の講習会等の企画も実施する予定である。



写真1 意見交換会の様子

「特別会員出前講演会」開催報告

企画総務グループ 幹事
鎌田敏幸（ケミカルグラウト㈱）

平成22年4月1日（木）に関東支部の「特別会員出前講演会」が開催されました。特別会員のケミカルグラウト㈱が、耐震設計について最新の研究動向やトピックスを知る目的で開催されました。講演テーマは、「耐震設計におけるライフサイクルコスト適用例」と「無重力条件下における砂の三軸圧縮試験」で、東京大学社会基盤学科の東畑郁生教授が講演しました。参加者は、約50名と大変盛況でした。

講演内容は、最近の地震災害事例の紹介にはじまり、一つ目のテーマとしてライフサイクルコスト算定手法までと幅広く、大変面白い講演内容に参加者も熱心に聞き入っていました。液状化については、1964年の新潟地震の際の極めて貴重な液状化と噴砂の様子を収めた動画も紹介して頂きました。もう一つのテーマは、東畑教授が最近研究を行っている、無重力条件下での砂の三軸圧縮試験についてでした。参加者は、試験の様子動画を大変興味深く見ていました。講演の途中には、出張した国々での出来事などのお話もあり2時間の講演会はあっという間に終了しました。最後に、大変難しい研究内容をわかりやすく講演をして頂きました東畑教授に、聴講者から大きな拍手が贈られました。

地盤工学会関東支部では、特別会員を対象として大学の先生等の専門家をお招きして、興味がある話題に対して講演して頂くことができます。これは、中学生、高校生向けの総合学習、授業も対象としたものでもあります。このような講演会を通じて、特別会員の皆様に地盤工学の基礎から最先端の研究動向を知って頂き、今後の活動に活かして頂ければと考えています。

つきましては、下記URLに詳細を記していますのでご検討頂ければ幸いです。

<http://www.jiban.or.jp/kantou/kouza/kouza2.htm>

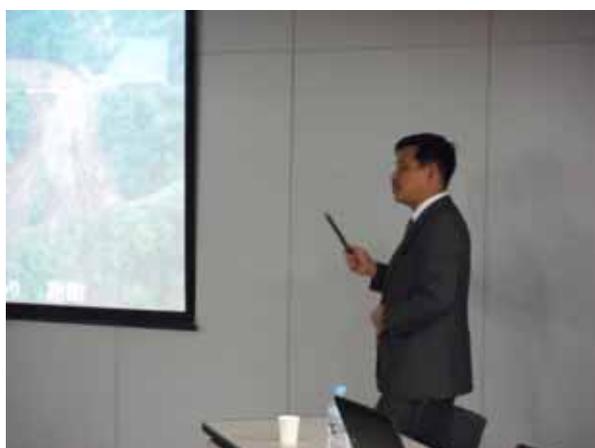


写真1 講演される東畑教授

国際講演会「中国三峡区域における地すべり・斜面崩壊の実情と対策」

前 企画総務グループ 幹事

王 林 (中央開発(株))

平成 22 年 4 月 26 日の 15:00～17:00 に、国際講演会「中国三峡区域における地すべり・斜面崩壊の実情と対策」が、日本地すべり学会・日本地震工学会の後援を得て、地盤工学会地下大会議室で開催されました。

本国際講演会は、中国の斜面崩壊問題に関して、三峡ダム地域地すべり問題と四川大地震における典型的な地すべり問題をテーマに構成され、講師は中国の国務院でも枢要な地位にある中国国務院三峡建設委員会 羅副司長と中国科学院成都山地災害与環境研究所の専門家の方々となされました。

東畑郁生幹事長(東京大学)が開会の挨拶をされ、続いて以下の講演が行われた。(写真 1 参照)

- 講演 1 : 「中国三峡区域における地すべり・斜面崩壊の実情と対策」
中国国務院 三峡建設委員会 羅元華博士 (副司長, <http://www.3g.gov.cn/index.ycs>)
- 講演 2 : 「中国における地震・地すべりハザードマップについて」
中国科学院成都山地災害研究所 王萌研究員
- 講演 3 : 「四川大地震における典型的な地すべりの特徴およびメカニズムに関する研究」
中国科学院成都山地災害研究所 喬建平教授

当日は 58 名の参加を頂き、地すべり学会・機器メーカー・投資会社(大和 SMBC キャピタル)からの参加もありました。本講演会は参加費無料で実施され、活発な質疑が行われた。



写真 1 講演される講師の様子(左)と熱心な受講者(右)

第7回地盤工学会関東支部発表会（Geo-Kanto2010）開催告知

支部発表会グループ リーダー幹事
橋 伸也（埼玉大学）

平成22年度で7回目を迎える関東支部発表会を、平成22年11月4日（木）と5日（金）の2日間、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティビルにて開催することが決定いたしましたので、ここで告知をさせていただきます。

この発表会は、若手技術者の情報交換や、地盤工学会の一般会員と学生会員との意見交換の場を提供するものです。地盤工学全般について、従来型の研究発表に留まらず、参加者に意見を求める中間報告的な発表や、技術報告、施工事例紹介などの、いわゆる「研究」以外の発表を広く受け付けます。例年どおり、学生・若手技術者の優れた講演に対する優秀発表者賞の授与と表彰を予定いたしております。その他イベントについても、現在、支部発表会グループで企画しているところではありますが、関東支部の研究委員会によるディスカッションセッション等の開催、また、見学会の開催を予定いたしております。

発表会への参加申込や論文投稿など詳細については、決まり次第、学会誌、関東支部ホームページや会員メーリングリストなどを通じて告知させていただきます。多くの皆様のご参加、ご投稿をお待ちいたしております。

【行事報告】

日程	行事名称	場所
H21.11.10	技術講習会	千葉県教育会館
H21.11.12 ～13	第6回地盤工学会関東支部発表会「Geo-Kanto2009」	栃木県総合文化センター
H21.11.25	薬液注入系工法を対象とした工法協会交流会	JGS会館
H21.11.26	実務に役立つ「群馬の地盤工学Q & A」 — 太田秀樹先生，東畑郁生先生を囲んで —	前橋市民文化会館
H21.11.27	平成21年度神奈川県地盤工学セミナー	関東学院大学 内 メディアセンター
H21.12.1	特別講演会「台湾南部の豪雨による土砂災害について」 ウェイ・リー博士（台湾）	JGS会館
H21.12.3	防災科学技術研究所見学会	茨城県つくば市
H21.12.11	第11回技術交流会	東京都下水道局 東尾久浄化セン

		ター
H21.12.17	第9回彩の国市民オープンフォーラム	大宮ソニックシティビル
H22.1.27	特別講演会「東京スカイツリーの構造設計について」	JGS 会館
H22.2.3	利根川新橋（圧入ケーソン）・他橋梁基礎工事現場見学会	群馬県前橋市
H22.2.22	H21 年度第2回評議員会・特別講演会「最近の地震での斜面崩壊と流動距離のエネルギー的評価」	JGS 会館
H22.2.26	第1回若手会員交流会	JGS 会館
H22.3.16	現場見学会「ハツ場ダム事業に関わる現地見学」主催：土木学会関東支部 群馬会 共催：地盤工学会関東支部	ハツ場ダム建設予定地
H22.4.1	特別会員出前講演会	ケミカルグラウト(株)
H22.4.26	国際講演会「中国山峡区域における地すべり・斜面崩壊の実情と対策」	JGS 会館
H22.4.27	平成22年度関東支部総会(午後16時～17時) 特別講演会「国土交通行政の将来展望に関する話題提供」(午後17時30分～18時30分)、意見交換会(午後18時30分～19時30分)	JGS 会館

ゴシックは本号に報告有り

【行事予定】

日程	行事名称	場所
H22.6.18	「新技術を用いた空（宇宙）からの地すべり地形把握と解析」シンポジウム 主催：（社）日本地すべり学会関東支部 後援：（社）地盤工学会関東支部	東京大学武田先端知ホール
H22.8.24	東京スカイツリー追加講演会	JGS 会館
H22.9.21	「実務者のための戸建住宅の地盤改良・補強工法 - 考え方から適用まで -」講習会 主催：日本材料学会 協賛：（社）地盤工学会関東支部	東京会場：建設会館ホール
H22.9.24	「地質リスクマネジメント事例研究発表会」主催：（社）全国地質調査業協会連合会 協賛：（社）地盤工学会関東支部	飯田橋レインボーホール
H22.11.4 ～5	第7回地盤工学会関東支部発表会「Geo-Kanto2010」	大宮ソニックシティ
H22.11.26	出前講座「福井県立藤島高校」	福井県立藤島高校

ゴシックは本号に告知有り

【今後の委員会予定】

日程	委員会名称	場所
H22.7.6	地下水位の回復にともなう広域地盤隆起の問題とその地中施設への影響に関する研究委員会 WG-2	JGS 会館
H22.7.7	企画総務グループ幹事会	JGS 会館
H22.7.15	運営委員会	JGS 会館
H22.7.26	地盤工学におけるリスクマネジメントに関する事例研究委員会	JGS 会館
H22.8.3	薬液注入工法を用いた地盤改良技術の今後の展開に関する調査・検討会	JGS 会館
H22.8.9	支部発表会グループ幹事会	JGS 会館

(玉手 聡：企画総務グループ 幹事)

発行 社団法人 地盤工学会関東支部
〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 TEL03-3946-8670 FAX03-3946-8678